

第3章 具体的な取組内容

素案

(1) 多様な物流・産業ニーズに対応する物流空間づくり

物流
産業

① 物流ニーズに合ったふ頭の再編

既存貨物である原木、珪石等の取扱増加に対応するため、適切に貨物配置し、地場産業の国内競争力の強化を促進するとともに、モーダルシフトに対応した県北産品の物流拠点形成を目指します。

立地企業に対応する用地の造成・整備により、投資促進や雇用創出を目指します。

現状認識と対応策の考え方

- 現在、既存貨物である原木や珪石、湾口防波堤の整備に係る資機材の保管等でふ頭が利用されており、将来的には既存貨物である原木や非金属鉱物等の取扱増加が見込まれます。
- 将来の利用船型に対応して、岸壁とふ頭の一体的な有効利用を進めていく必要があります。
- 物流の2024年問題（労働時間の制約、ドライバー不足等）により、県北産品（農産品・畜産品等）の京浜港を含めた首都圏等への陸上輸送運賃やリードタイムの見直しが必要となります。
- 沿岸部を縦に繋ぐ三陸沿岸道路の供用により、久慈港周辺の広域交通網は充実しつつあります。
- 岸壁の利用状況や貨物の特性、モーダルシフトへの対応を踏まえた各地区の機能分担を図り、港湾施設の整備・有効利用によるふ頭全体の効率化を目指します。

パース



第3章 具体的な取組内容

案

(1) 多様な物流・産業ニーズに対応する物流空間づくり

物流
産業

① 物流ニーズに合ったふ頭の再編

既存貨物である原木、珪石等の取扱増加に対応するため、適切に貨物配置し、地場産業の国内競争力の強化を促進するとともに、モーダルシフトに対応した県北産品の物流拠点形成を目指します。

立地企業に対応する用地の造成・整備により、投資促進や雇用創出を目指します。

現状認識と対応策の考え方

- 現在、既存貨物である原木や珪石、湾口防波堤の整備に係る資機材の保管等でふ頭が利用されており、将来的には既存貨物である原木や非金属鉱物等の取扱増加が見込まれます。
- 将来の利用船型に対応して、岸壁とふ頭の一体的な有効利用を進めていく必要があります。
- 物流の2024年問題（労働時間の制約、ドライバー不足等）により、県北産品（農産品・畜産品等）の京浜港を含めた首都圏等への陸上輸送運賃やリードタイムの見直しが必要となります。
- 沿岸部を縦に繋ぐ三陸沿岸道路の供用により、久慈港周辺の広域交通網は充実しつつあります。
- 岸壁の利用状況や将来の貨物需要**、モーダルシフトへの対応を踏まえた各地区の機能分担を図り、港湾施設の整備・有効利用によるふ頭全体の効率化を目指します。

パース



物流
産業

②大型船型に対応したバルクターミナルの形成

県北で生産される原木や珪石の販路拡大及び金属くずの国内需要拡大に対応するため、大型船型に対応したバルクターミナルを形成することで、地場産業の国際競争力強化を目指します。

現状認識と対応策の考え方

- 県北で生産される珪石や原木は、国内外に輸移出が行われている中で、スケールメリットを活かした大型船での輸出に対する要望が顕在化しており、現在の最大岸壁（水深10m、延長185m）では能力が不足します。
- カーボンニュートラルの実現に向けて、国内製鉄所が高炉から電炉へ製造工程をシフトする動きにあり、「鉄スクラップ（金属くず）」の国内需要の拡大が期待されます。
- 諏訪下地区、半崎地区への大水深岸壁・ふ頭用地の整備により、県北産バルク貨物や電炉用鉄スクラップの取扱拠点を目指します。
- ふ頭用地の整備においては、久慈港周辺で将来的に想定される公共事業で発生する土砂の受入も含めて検討を進めていきます。

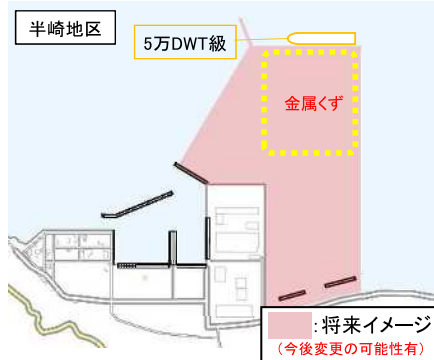
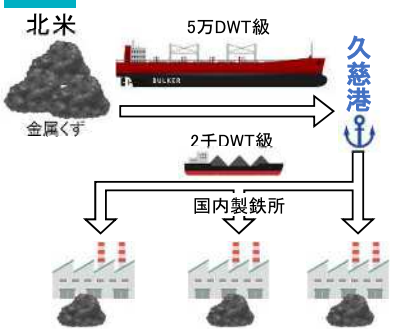
現況



将来



将来

物流
産業

②大型船型に対応したバルクターミナルの形成

県北で生産される原木や珪石の販路拡大及び金属くずの国内需要拡大に対応するため、大型船型に対応したバルクターミナルを形成することで、地場産業の国際競争力強化を目指します。

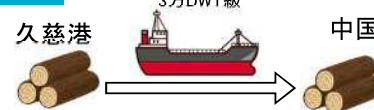
現状認識と対応策の考え方

- 県北で生産される珪石や原木は、国内外に輸移出が行われている中で、スケールメリットを活かした大型船での輸出に対する要望が顕在化しており、現在の最大岸壁（水深10m、延長185m）では能力が不足します。
- カーボンニュートラルの実現に向けて、国内製鉄所が高炉（鉄鉱石）と比較してCO2排出量の少ない電炉（金属くず）へ製造工程をシフトする動きにあり、「鉄スクラップ（金属くず）」の国内需要の拡大が期待されます。
- 諏訪下地区、半崎地区への大水深岸壁・ふ頭用地の整備により、県北産バルク貨物や電炉用鉄スクラップの取扱拠点を目指します。
- ふ頭用地の整備においては、岸壁の利用状況や将来の貨物需要、久慈港周辺で将来的に想定される公共事業で発生する土砂の受入等も含めて検討を進めていきます。

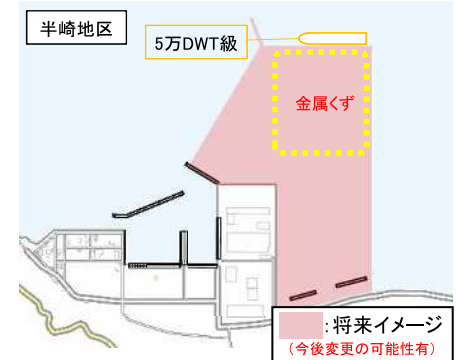
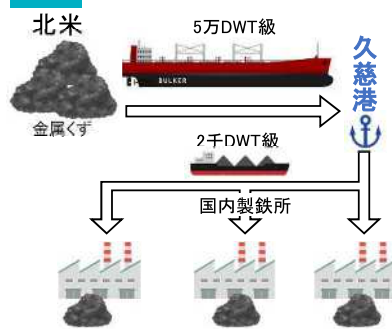
現況



将来



将来



③ エネルギー産業拠点の形成

風力発電事業計画に対応する風力発電設備の物流拠点形成により、新たな地域産業・雇用の創出を目指します。

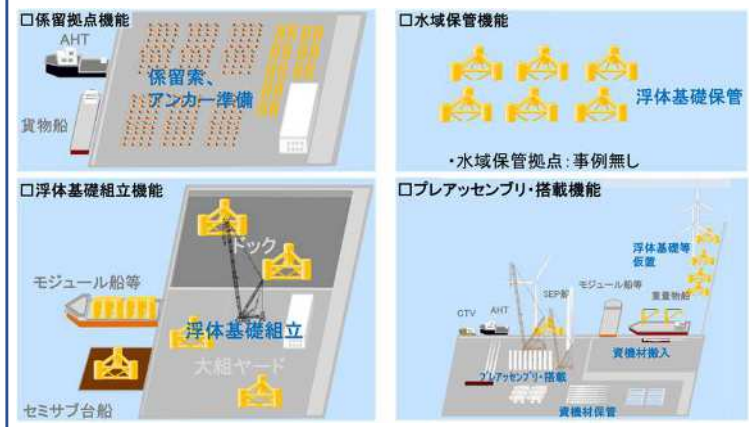
現状認識と対応策の考え方

- 「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律」により、洋上風力発電事業を推進する仕組みが整備されつつあります。本県の沿岸北部海域は、導入可能性を見込めるエリアとして調査等が実施されており、そのような中、久慈市沖が令和3年9月に「一定の準備段階に進んでいる区域（準備区域）※」として整理されています。
- 本県沿岸部においては、海底が急傾斜で深くなるため、浮体式洋上風力発電の導入が有力とされていますが、まだ実証段階にあることから、今後の技術開発動向や、国土交通省等において実施している洋上風力発電の導入促進に係る検討状況を踏まえ、エネルギー産業拠点の形成に向けた検討を進めていきます。

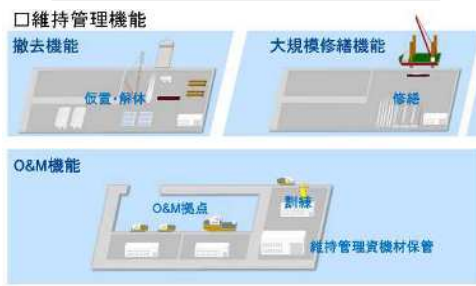
※令和6年度以降、「一定の準備段階に進んでいる区域」から「準備区域」に名称変更

浮体式洋上風力発電について

浮体式洋上風力発電の設置・組立を行う港湾に求められる機能



洋上風力発電の維持管理を行う港湾に求められる機能



作業船拠点港に求められる機能



出典:国土交通省港湾局HP
「洋上風力発電の導入促進に向けた港湾のあり方に関する検討会 事務局資料」

③ エネルギー産業拠点の形成

風力発電事業計画に対応する風力発電設備の物流拠点形成により、新たな地域産業・雇用の創出を目指します。

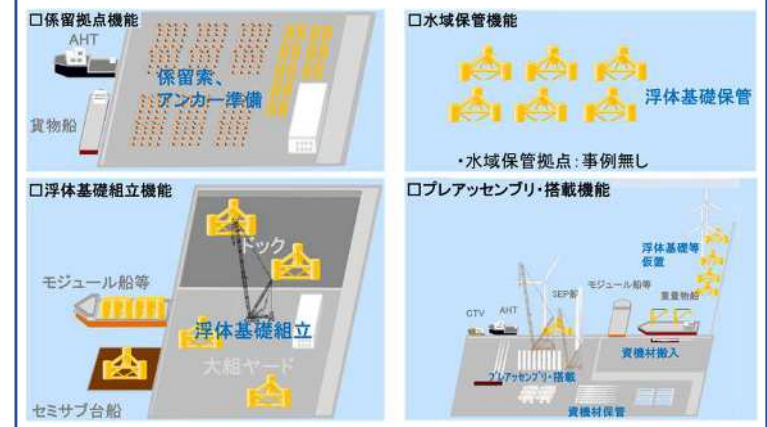
現状認識と対応策の考え方

- 「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律」により、洋上風力発電事業を推進する仕組みが整備されつつあります。本県の沿岸北部海域は、導入可能性を見込めるエリアとして調査等が実施されており、そのような中、久慈市沖が令和3年9月に「一定の準備段階に進んでいる区域（準備区域）※」として整理されています。
- 本県沿岸部においては、海底が急傾斜で深くなるため、浮体式洋上風力発電の導入が有力とされていることから、国土交通省等において実施している浮体式洋上風力発電の導入促進に係る検討状況、今後の技術開発動向及び久慈市沖等の案件形成の進捗状況を踏まえ、エネルギー産業拠点の形成に向けた検討を進めていきます。

※令和6年度以降、「一定の準備段階に進んでいる区域」から「準備区域」に名称変更

浮体式洋上風力発電について

浮体式洋上風力発電の設置・組立を行う港湾に求められる機能



洋上風力発電の維持管理を行う港湾に求められる機能



作業船拠点港に求められる機能



出典:国土交通省港湾局HP
「洋上風力発電の導入促進に向けた港湾のあり方に関する検討会 事務局資料」

物流
産業

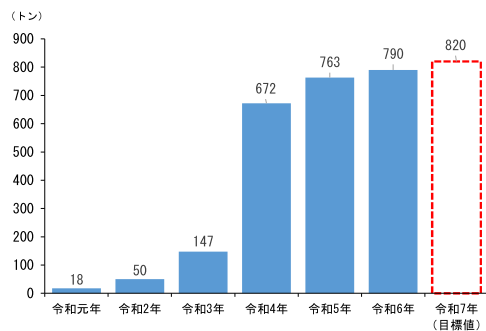
④ 地域の水産業を支える拠点の形成

湾口防波堤の整備によって生まれる静穏海域を活用し、ブランド養殖等による地場産品の輸移出拠点形成を目指します。

現状認識と対応策の考え方

- 久慈市の水揚げ高は減少傾向にあるものの、令和元年から取組を開始した養殖サーモンの生産が本格化しており、「久慈育ち琥珀サーモン」と名付けてブランド化しています。
- ブランド養殖等による地場産品の国内外への輸移出拠点形成を目指します。

養殖サーモン水揚量推移

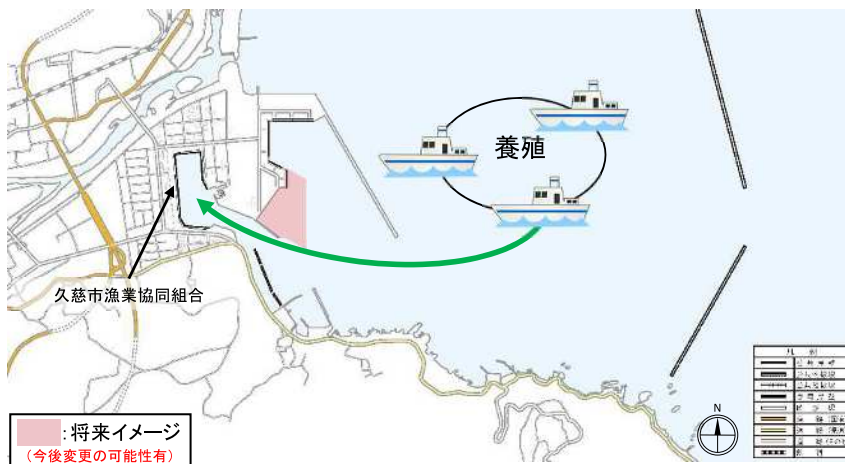


出典: 久慈市漁業協同組合ヒアリング結果



サーモン養殖

写真: 久慈市提供



将来イメージ
(今後変更の可能性有)

物流
産業

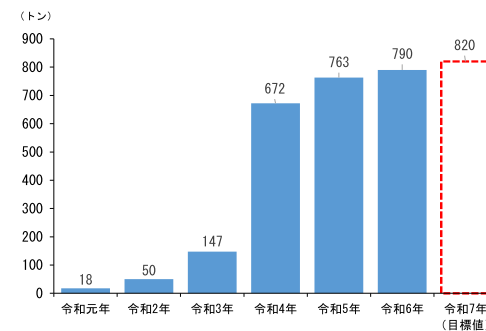
④ 地域の水産業を支える拠点の形成

湾口防波堤の整備によって生まれる静穏海域を活用し、ブランド養殖等による地場産品の物流拠点形成を目指します。

現状認識と対応策の考え方

- 久慈市の水揚げ高は減少傾向にあるものの、令和元年から取組を開始した養殖サーモンの生産が本格化しており、「久慈育ち琥珀サーモン」と名付けてブランド化しています。
- ブランド養殖等による地場産品の物流拠点形成を目指します。

養殖サーモン水揚量推移

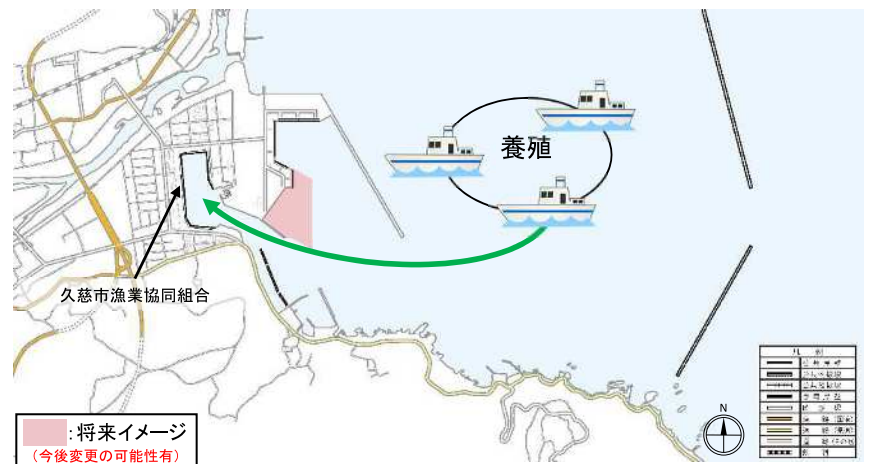


出典: 久慈市漁業協同組合ヒアリング結果



サーモン養殖

写真: 久慈市提供



将来イメージ
(今後変更の可能性有)

物流
産業

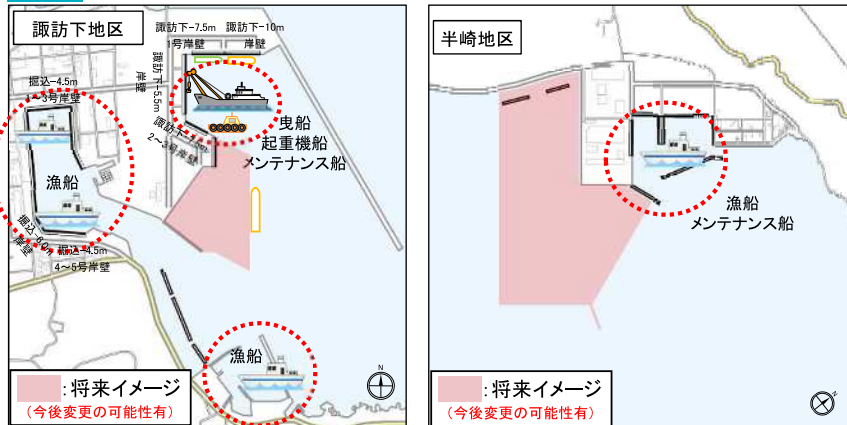
⑤ 小型船だまりの利便性の向上

地元建設企業の作業船及び漁業関係者等の小型船舶を適正配置・管理し、小型船だまりの利便性の向上に取り組みます。

現状認識と対応策の考え方

- 久慈港では、湾口防波堤整備にあたり、地元建設企業が所有する起重機船等の作業船の基地港として利用されています。
- 期待される物流機能を確保するため、作業船及び漁業関係者等の小型船舶の保管機能を見直す必要があります。
- 作業船や漁船、洋上風力メンテナンス船等の船溜まりの確保により、地域産業の利便性の向上に取り組みます。

将来



起重機船



▲撮影：令和4年11月28日



▲撮影：令和5年4月3日

洋上風力メンテナンス船



出典：国土交通省港湾局HP
「洋上風力発電の導入促進に向けた港湾のあり方に関する検討会 事務局資料」

物流
産業

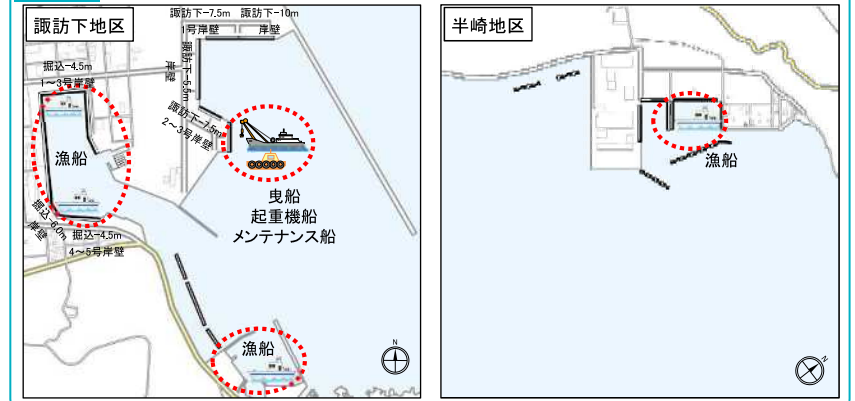
⑤ 小型船だまりの利便性の向上

地元建設企業の作業船及び漁業関係者等の小型船舶を適正配置・管理し、小型船だまりの利便性の向上に取り組みます。

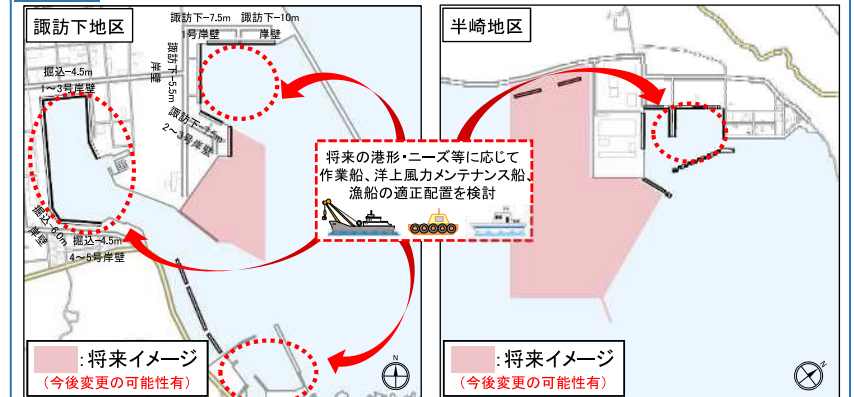
現状認識と対応策の考え方

- 久慈港では、湾口防波堤整備にあたり、地元建設企業が所有する起重機船等の作業船の基地港として利用されています。
- 期待される物流機能を確保するため、作業船及び漁業関係者等の小型船舶の保管機能を見直す必要があります。
- 作業船や漁船、洋上風力メンテナンス船等の船溜まりの確保により、地域産業の利便性の向上に取り組みます。

現状



将来



(2) ブルーインフラを展開する環境空間づくり

環境 ⑥ 生物多様性の保全

藻場造成や水質観測、生物共生型港湾構造物などの検討により、生物多様性の保全に寄与する環境づくりに取り組みます。

現状認識と対応策の考え方

- 湾口防波堤の整備により、広大な静穏海域が確保されますが、閉鎖性海域となるため、環境への影響に配慮する必要があります。
- この静穏海域を活用して、水質観測や生物共生型港湾構造物、藻場造成などの検討を行い、良好な港湾環境及び生物生息環境の創出に取り組みます。

藻場造成・生物共生構造物の検討

【藻場造成】



【生物共生型港湾構造物・イメージ図】



※計画位置・規模については今後の検討により決定

【凡 例】

- 藻場造成想定エリア
- 生物共生型港湾構造物想定箇所
- 将来イメージ

出典：国土交通省HP
「命を育むみなとのブルーインフラ拡大プロジェクト」～ブルーインフラの保全・再生・創出に関する主な取組事例集～

(2) ブルーインフラを展開する環境空間づくり

環境 ⑥ 生物多様性の保全

藻場造成や水質観測、生物共生型港湾構造物などの検討により、生物多様性の保全に寄与する環境づくりに取り組みます。

現状認識と対応策の考え方

- 湾口防波堤の整備により、広大な静穏海域が確保されますが、閉鎖性海域となるため、環境への影響に配慮する必要があります。
- この静穏海域を活用して、水質観測や生物共生型港湾構造物、藻場造成などの検討を行い、良好な港湾環境及び生物生息環境の創出に取り組みます。

藻場造成・生物共生構造物の検討

【藻場造成】



【生物共生型港湾構造物・イメージ図】



※計画位置・規模については今後の検討により決定

【凡 例】

- 藻場造成想定エリア
- 生物共生型港湾構造物想定箇所
- 将来イメージ（今後変更の可能性有）

出典：国土交通省HP
「命を育むみなとのブルーインフラ拡大プロジェクト」～ブルーインフラの保全・再生・創出に関する主な取組事例集～

(3) 地域資源を活用した賑わい空間づくり

賑わい
交流

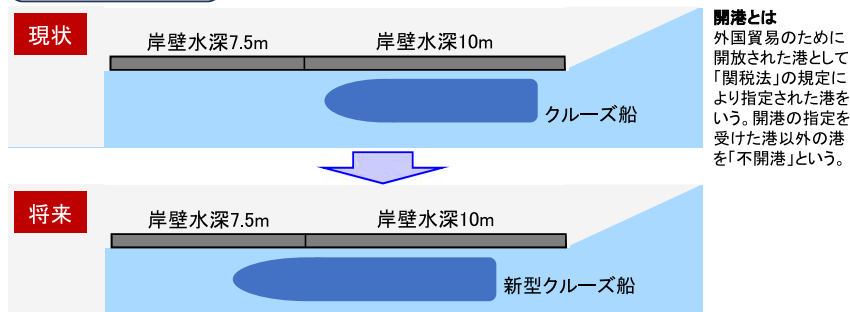
⑧クルーズ船の受入機能の強化

多様なクルーズ船型の寄港に対応するため、必要な受入機能の強化を図ります。

現状認識と対応策の考え方

- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、国際クルーズ船の運航・受入れが再開したことから、日本国内におけるクルーズ観光の需要が再度高まっており、国際クルーズ船の寄港増加が見込まれます。
- 久慈港は国際クルーズ船の受入機能が十分ではないため、これまでは邦船社のみ寄港してきました。今後は外国船社の寄港にも対応した受入機能確保や開港に向けた手続きを検討します。
- 岩手県内他港との機能分担を図り、既存ストックを活用し、寄港が期待される小・中型クルーズ（5万G/T級以下）の受入機能の強化を図ります。

連続バースの運用



クルーズ船の受入対応状況

歓迎幕

物販テント

歓迎セレモニー

■寄港が期待される邦船社クルーズ船	
総トン数	52,200t
全長	230m
喫水	6.7m
初就航	2025年
乗客定員	740人
船会社	郵船クルーズ
船名	飛鳥Ⅲ
総トン数	32,477t
全長	198.1m
喫水	6.4m
初就航	2024年
乗客定員	458人
船会社	商船三井
船名	MITSUI OCEAN FUJI

写真：久慈市提供

出典：商船三井、郵船クルーズHP

(3) 地域資源を活用した賑わい空間づくり

賑わい
交流

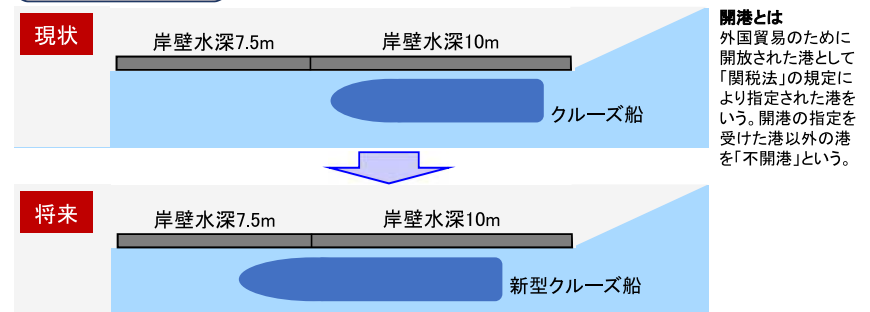
⑧クルーズ船の受入機能の強化

多様なクルーズ船型の寄港に対応するため、必要な受入機能の強化を図ります。

現状認識と対応策の考え方

- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、国際クルーズ船の運航・受入れが再開したことから、日本国内におけるクルーズ観光の需要が再度高まっており、国際クルーズ船の寄港増加が見込まれます。
- 久慈港は国際クルーズ船の受入機能が十分ではないため、これまでは邦船社のみ寄港してきました。今後は外国船社の寄港にも対応した受入機能確保や開港に向けた手続きを検討します。
- 岩手県内他港との機能分担を図り、既存ストックを活用し、寄港が期待される小・中型クルーズ（5万G/T級以下）の受入機能の強化を図ります。

連続バースの運用



クルーズ船の受入対応状況

歓迎幕

物販テント

歓迎セレモニー

■寄港が期待される邦船社クルーズ船	
総トン数	52,200t
全長	230m
喫水	6.7m
初就航	2025年
乗客定員	740人
船会社	郵船クルーズ
船名	飛鳥Ⅲ
総トン数	32,477t
全長	198.1m
喫水	6.4m
初就航	2024年
乗客定員	458人
船会社	商船三井
船名	MITSUI OCEAN FUJI

写真：久慈市提供

出典：商船三井、郵船クルーズHP

賑わい
交流

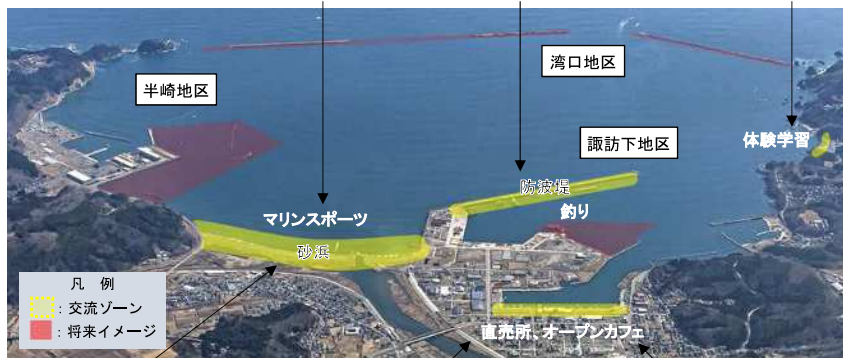
⑪ 新たな静穏海域を活用した賑わい空間の創出

湾口防波堤の整備によって生まれる静穏海域を活用し、マリンスポーツ、釣り、海岸利用等の海洋性レクリエーション機能の充実を目指します。

現状認識と対応策の考え方

- 湾口防波堤の整備により、新たな静穏海域が確保されます。
- 地域からの要望である賑わい空間の創出に向けて、マリンスポーツ、釣り、海岸利用等の海洋性レクリエーション機能の充実に取り組みます。

賑わい空間の創出



出典：久慈市HP、浄土ヶ浜ビジターセンターHP、国交省港湾局HP「我が国の港湾における釣り文化の振興に関する事例集」、
「港湾海岸（ビーチ）の利活用について」

賑わい
交流

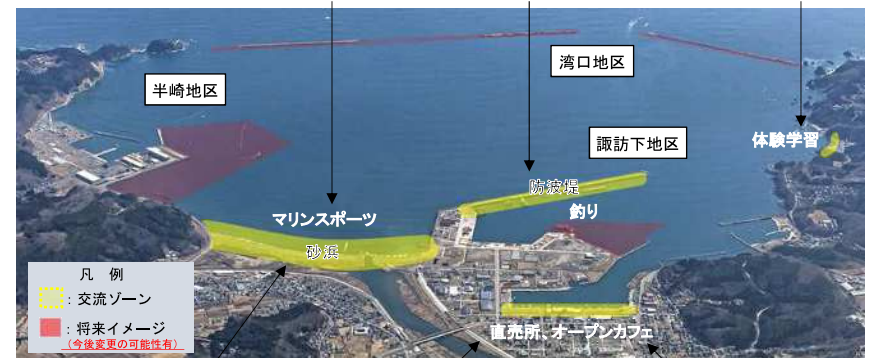
⑪ 新たな静穏海域を活用した賑わい空間の創出

湾口防波堤の整備によって生まれる静穏海域を活用し、マリンスポーツ、釣り、海岸利用等の海洋性レクリエーション機能の充実を目指します。

現状認識と対応策の考え方

- 湾口防波堤の整備により、新たな静穏海域が確保されます。
- 地域からの要望である賑わい空間の創出に向けて、マリンスポーツ、釣り、海岸利用等の海洋性レクリエーション機能の充実に取り組みます。

賑わい空間の創出



出典：久慈市HP、浄土ヶ浜ビジターセンターHP、国交省港湾局HP「我が国の港湾における釣り文化の振興に関する事例集」、
「港湾海岸（ビーチ）の利活用について」

安全
安心

⑬防災機能の強化

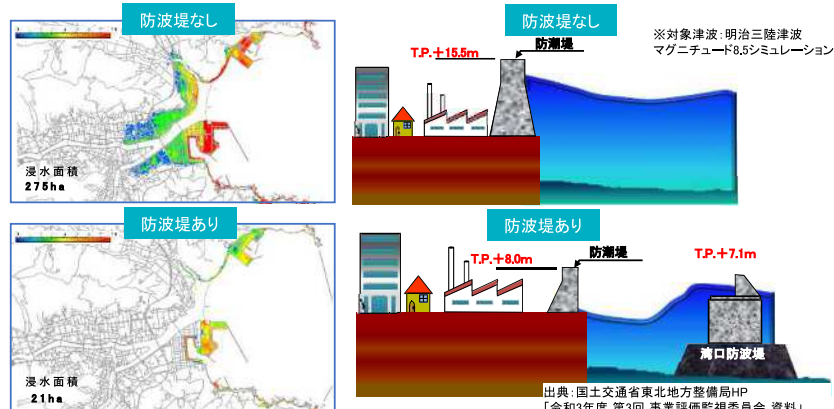
港湾背後地域の津波浸水範囲の狭域化や港内静穏度の向上が期待される湾口防波堤を早期に整備し、防災機能の強化を目指します。

東日本大震災の教訓として、地域住民に対する津波防災教育や観光客、港湾労働者等に対する避難経路や避難場所の周知により、津波防災地域づくりを目指します。

現状認識と対応策の考え方

- 津波被害から生命・財産の防護、港内静穏度向上による安全な岸壁荷役等の防災機能について、早期に効果発現するため、湾口防波堤の整備を進めます。
- 地域防災力向上を目的とした「津波防災出前講座」の継続実施や、地理に不案内な観光客、港湾労働者等に対する港湾周辺の避難経路や避難場所の周知を図ります。

津波浸水範囲の狭域化



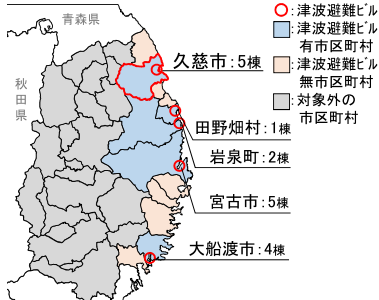
※上図は、湾口防波堤の整備効果を検証した結果であり、令和4年3月29日に岩手県が公表した浸水想定図（各種構造物の地震による沈下や津波越流による破堤を考慮）とは異なる。

津波防災出前講座開催状況



出典：岩手県HP
「津波防災教育講座の様子」

津波避難ビル指定状況_岩手県



出典：岩手県各市町村ホームページ（令和5年時点）

安全
安心

⑬防災機能の強化

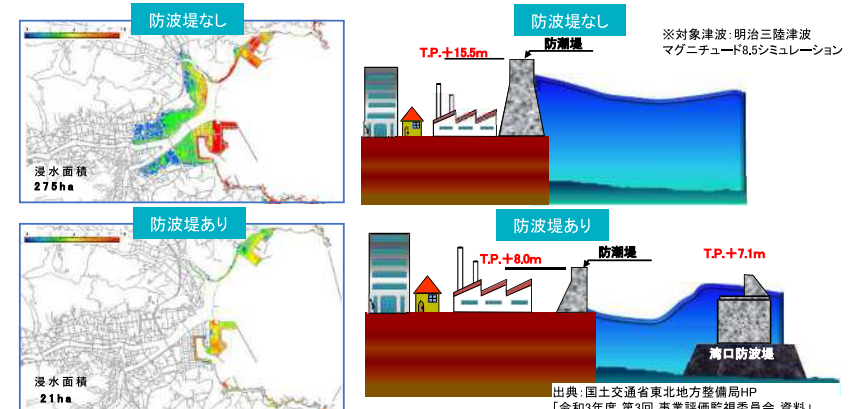
港湾背後地域の津波浸水範囲の狭域化や港内静穏度の向上が期待される湾口防波堤を早期に整備し、防災機能の強化を目指します。

東日本大震災の教訓として、地域住民に対する津波防災教育や観光客、港湾労働者等に対する避難経路や避難場所の周知により、津波防災地域づくりを目指します。

現状認識と対応策の考え方

- 津波からの生命・財産の防護、港内静穏度向上による安全で安定的な岸壁荷役等、港湾防災機能の効果早期発現に向け、湾口防波堤の整備を進めます。
- 地域防災力向上を目的とした「津波防災出前講座」の継続実施や、地理に不案内な観光客、港湾労働者等に対する港湾周辺の避難経路や避難場所の周知を図ります。

津波浸水範囲の狭域化



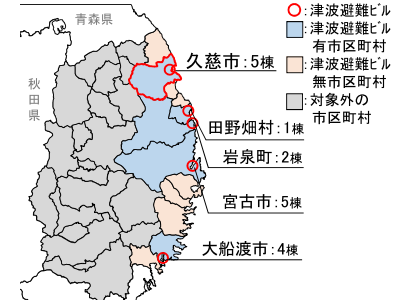
※上図は、湾口防波堤の整備効果を検証した結果であり、令和4年3月29日に岩手県が公表した浸水想定図（各種構造物の地震による沈下や津波越流による破堤を考慮）とは異なる。

津波防災出前講座開催状況



出典：岩手県HP
「津波防災教育講座の様子」

津波避難ビル指定状況_岩手県



出典：岩手県各市町村ホームページ（令和5年時点）

第4章 港湾利用ゾーニング

素案

(1) 全体図



凡 例

- | | | |
|--------|----------|---------|
| 物流ゾーン | エネルギーゾーン | 船溜まりゾーン |
| 生産ゾーン | 環境ゾーン | 交流ゾーン |
| 将来イメージ | | |

第4章 港湾利用ゾーニング

案

(1) 全体図



凡 例

- | | | |
|--------------------|----------|---------|
| 物流ゾーン | エネルギーゾーン | 船溜まりゾーン |
| 生産ゾーン | 環境ゾーン | 交流ゾーン |
| 将来イメージ (今後変更の可能性有) | | |

(2) 諏訪下地区・玉の脇地区



(2) 諏訪下地区・玉の脇地区



(3) 半崎地区



凡 例		
 	 	
物流ゾーン	エネルギーゾーン	船溜まりゾーン
生産ゾーン	環境ゾーン	交流ゾーン
		
将来イメージ		

(3) 半崎地区



凡 例		
 	 	
物流ゾーン	エネルギーゾーン	船溜まりゾーン
生産ゾーン	環境ゾーン	交流ゾーン
		
将来イメージ （今後変更の可能性有）		